

平成 19 年度
事業報告書

自 平成 19 年 4 月 1 日
至 平成 20 年 3 月 31 日

社団法人日本ボート協会

平成 19 年度 事業 報告

協会の目的である「ボート競技を振興して日本国民の体力の向上とスポーツ精神を育成することによりわが国文化の向上に寄与すること」に即して計画事業を実施した。

協会の中期計画としての課題を「人口増大」「オリンピックでのメダル獲得」「財政強化」「魅力向上」の四つに集約し、それぞれプロジェクトチームを編成し活動を本格化に進めた。

本年度は人口増大プロジェクトの活動開始3年目となり、第1回全日本マスターズ大会の開催に向けて準備作業を開始した。具体的で明確な方針のものに主管団体と協力して事業を進めることを通じて日本でボート人口増大運動の輪を着実に大きくするよい機会となった。

次に強化面（メダル獲得プロジェクト）では、昨年の世界選手権大会で男子軽量級ダブルスカルの北京オリンピック出場権獲得は、まさしく目標としてきた「オリンピックでのメダル獲得」を実現するための一歩となった。更なるコーチングスタッフの力量アップと強化指定選手に対しては綿密なる強化計画を策定し、その実力を遺憾なく発揮して貰う環境を整えた。

財政強化プロジェクトについては、これまでの枠組みに捉われず積極的に新たな収入の道を設ける工夫を図った。

魅力向上プロジェクトでは、協会主催大会の観客動員増を目指し「見て面白いレガッタ」を、また老若男女が幅広く楽しめるよう「ローイングボートのジャンル開拓」を図り、その一環として11月、都内外濠で第2回外濠レガッタを開催した。

プロジェクト活動以外では、協会の基幹事業である各種全日本選手権大会及び各種競漕会の開催、安全で円滑な大会運営に資する各種規則の制定、公認コース設定のための指導と助言ならびに認定、普及振興のための指導者養成とマシンローイング大会の開催、ジュニア選手の育成と強化、アンチドーピングに対する取組み、事故発生を未然に防止するための安全ガイドラインの周知並びに安全意識向上のための指導と教育、広報誌「月刊ローイング」及び協会ホームページの更なる充実等々の事業を関係各位のご協力を得て実施した。

また、2016年オリンピック大会の招致希望都市が東京都に決定したことを受け、招致活動は本番を迎えた。協会は招致に向け、JOCに全面的に協力し活動した。

協会としては、厳しい財政事情に直面しているが、関係各位の更なるご協力とご支援を得て、各事業計画の実行と達成を図った。

■平成 19 年度実施事業

当協会は、ボート競技を振興して日本国民の体力の向上とスポーツ精神を育成することによりわが国文化の向上に寄与する目的を達成するために、次の事業を行った。

1. 全日本選手権大会及び各種競漕会の開催に関する事業

(1) 競漕会の開催

各種の全日本選手権大会及び競漕会を下表のとおり開催した。全大会を通じて 2,169 クルー、5,734 名（延人数）が参加した。前年に対してクルー数は 2%増、参加人数は 1%減であった。

[表 1] 平成 19 年度競漕大会

開催期日	大会名称	開催場所	出漕クルー・人数	
			クルー	人数
6/7 (木) ～6/10 (日)	第 85 回全日本選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース	303	883 人
6/15 (金) ～6/17 (日)	JOC ジュニアオリンピックカップ 第 5 回全日本ジュニア選手権大会	熊本県菊池市 斑蛇口湖ボート場	155	155 人
7/6 (金) ～7/8 (日)	ジャパンカップ 第 29 回全日本軽量級選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース	273	586 人
7/14 (土) ～7/15 (日)	第 57 回全日本社会人選手権大会	宮城県登米市 宮城県長沼ボート場	134	297 人
8/9 (木) ～8/12 (日)	第 55 回全日本高等学校選手権 競漕大会	佐賀県唐津市 松浦川ボートコース	266	696 人
8/23 (木) ～8/26 (日)	第 34 回全日本大学選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース	343	994 人
8/25 (土) ～8/26 (日)	第 47 回オックスフォード盾 レガッタ		28	252 人
10/5 (金) ～10/8 (月)	第 62 回国民体育大会ボート競技	秋田県大潟村 大潟漕艇場	236	※
10/19 (金) ～10/21 (日)	第 48 回全日本新人選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース	287	697 人
H20. 3/22 (土) ～3/23 (日)	第 19 回全国高等学校選抜大会	静岡県浜松市 浜松市天竜ボート場	144	384 人
合計			2,169	5,734 人

※選手数のみ

(2) 登録団体数と登録選手数

平成 19 年度登録団体数、登録選手数は 632 団体、8,400 名で、前年に対して団体数は 1%減、選手数は 1%増であった。

(3) マスターズ大会の開催及び全国中学選手権競漕大会の主催

生涯スポーツとしてのボート競技振興と若年層のボート競技普及を図るため、当協会が 20 年度から全日本マスターズレガッタを開催すること、及び全国中学選手権競漕大会を主催することが決定した。この決定に基づき、両大会の開催に関わる諸業務を主管及び関連団体と推進した。

2. オリンピック大会及びこれに準ずる国際競漕大会に日本を代表するクルー及び役員を選定し、参加させることに関する事業

(1) 国際競漕大会派遣事業

日本代表クルーを選考して、下表の大会へ派遣した。2007 年世界選手権大会に於いて、男子軽量級ダブルスカルの北京オリンピック大会出場枠を獲得した。各大会の成績は付属資料のとおり。

[表 2-1] 日本代表選手団派遣大会

日 程	大 会 名 称	派遣人数	参加種目
6/1 (金) ～3 (日)	2007 年ワールドカップ第 1 戦 (オーストリア・リンツ)	役員 3 名 男子 3 名	LM1X LM2X
7/13 (金) ～15 (日)	2007 年ワールドカップ第 3 戦 (スイス・ルツェルン)	役員 3 名 男子 3 名	LM1X LM2X
7/26 (木) ～29 (日)	2007 年世界 U-23 選手権大会 (イギリス・ストラスクライド)	役員 3 名 男子 7 名 女子 3 名	BLM1X, BLM2X BLM4X BLW1X, BLW2X
8/7 (火) ～11 (土)	2007 年世界ジュニア選手権大会 (中国・北京)	役員 3 名 男子 7 名 女子 3 名	JM2X, JM2X JM4X JW1X, JW2X
8/26 (日) ～9/2 (日)	2007 年世界選手権大会 (ドイツ・ミュンヘン)	役員 8 名 男子 9 名 女子 2 名	LM1X, LM2X, LM2- LM4- LW2X
10/16 (火) ～19 (金)	第 12 回アジア選手権大会 (韓国・忠州)	役員 1 名 男子 11 名	M2-, M8+, LM1X LM2-, LM4-
10/16 (火) ～19 (金)	第 13 回アジアジュニア選手権 大会 (韓国・忠州)	役員 4 名 男子 3 名 女子 3 名	JM1X, JM2X JW1X, JW2X

(2) 国際審判員派遣事業

FISA 及び ARF 主催大会で審判業務に従事し、国際審判員の養成と技量向上を図るため、下表の大会へ国際審判員を派遣した。

[表 2-2] 国際審判員派遣大会

大会日程	大会名称	開催場所	派遣人員
7/26 (木) ~29 (日)	2007 年世界 U-23 選手権大会	イギリス・ストラスクライド	1 名
8/26 (日) ~9/2 (日)	2007 年世界選手権大会	ドイツ・ミュンヘン	1 名
10/16 (火) ~19 (金)	第 12 回アジア選手権大会 第 13 回アジアジュニア選手権大会	韓国・忠州	1 名

(3) 国際関係事業

- 1) 国際連盟の事業方針、競技規則、大会開催計画、各国の動向など、最新情報の把握のため、担当役員を下表の国際会議へ派遣した。
- 2) アジアボート連盟 (ARF) の年次総会で、日本から ARF 軽量級委員会委員長が選出された。

[表 2-3] 国際会議への派遣

会議日程	会議等の名称	主催者	開催場所	派遣人数
9/3 (月)	FISA 年次総会	国際ボート連盟	ドイツ・ミュンヘン	1 名
10/18 (火)	ARF 年次総会	アジアボート連盟	韓国・忠州	1 名

3. ボート競技に関する諸規定の制定に関する事業

(1) コース規格規定関係

- 1) 競漕大会での公平性と安全性を確保するため、当協会主管大会の C 級以上認定コース開催を義務付けた。この決定に伴い、全国コースの現状と問題点の把握に資するため、全国コースデータを作成した。
- 2) コース認定事業
コース認定視察を下表のコースについて実施し、日本協会公認コースと認定した。
また、必要に応じて、コース設定に関する指導・助言を行った。

(2) 審判関係規則の整備

競漕大会の円滑な運営を図るため、競漕規則の審判関係事項の整備を行った。

[表 3-1]

コース名称	所在地	等級	レーン数	距離	認定有効期間
(更新) 子吉川ボートコース	秋田県 由利本荘市	B級	5レーン	1,000m	平成 19/5/19～5年間
(更新) 琵琶湖漕艇場	滋賀県大津市	B級	6レーン	1,000m	平成 19/6/23～5年間
(更新) 円山川城崎漕艇場	兵庫県豊岡市	B級	6レーン	1,000m	平成 19/7/21～5年間
(更新) 松浦川ボートコース	佐賀県唐津市	B級	5レーン	1,000m	平成 19/8/26～5年間
兵庫運河浜山レガッタ コース	兵庫県神戸市	F級	4レーン	300m	平成 19/7/20～5年間

4. ボート競技に関する調査・研究・指導・強化並びに普及啓発に関する事業

(1) 審判関係事業

1) 審判員研修・養成

審判員資格試験と認定試験及び審判員研修会と講習会を下表のとおり開催した。

2) 大会審判業務

協会主催・主管大会に審判長、副審判長、審判員を派遣し、大会審判業務を行った。

3) 国際審判員の養成

FISA 国際審判員試験に 1 名が合格し、日本からの国際審判員登録人数は 14 名となった。

[表 4-1] 審判員研修・養成事業

研修会名称	開催日程・実施場所	参加予定数
第 64 回審判員研修会 (併・B 級審判員認定試験)	7/6 (金)～8 (日) 埼玉県・戸田ボートコース	30 名
第 65 回審判員研修会 (併・B 級審判員認定試験)	10/19 (金)～21 (日) 埼玉県・戸田ボートコース	40 名
審判員講習会 C 級審判員認定試験	都道府県協会の要請により 随時実施	

(2) 指導者養成事業

1) (財) 日本体育協会公認スポーツ指導者養成事業

日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づき、各指導者資格取得のための養成講習会を下表のとおり開催した。

[表 4-2] 公認スポーツ指導者養成

養成指導者名	養成数	開催日程	開催場所	養成担当
コーチ（専門科目）	20名	11/21～25	埼玉県戸田市	日本ボート協会
スポーツドクター	1名	10/11～12	東京都内	日体協

2) (財) 日本体育協会公認スポーツ指導者 資格更新のための義務研修会開催事業

公認スポーツ指導者の資格更新を図るため、更新義務研修会を下表のとおり開催した。

[表 4-3]

事業名	開催日程	開催場所	受講数
第1回義務研修会	5/4（日）	瀬田漕艇倶楽部（滋賀県）	30名
第2回義務研修会	1/26（金）	戸田ボートコース（埼玉県）	30名

3) 日本ボート協会認定ボートインストラクター養成事業

日本ボート協会が新たに制定した「認定ボートインストラクター」養成講習会を下表のとおり開催した。

[表 4-4]

事業名	開催日程	開催場所	受講数
第1回養成講習会	9/9（日）	浜松市天竜ボート場（静岡県）	30名
フォロー研修会	2/14（日） 3/9（日）	浜松市佐鳴湖漕艇場（静岡県）	各35名

(3) セーフティアドバイザー養成事業

1. セーフティアドバイザーの任命

当年度末の時点で、47都道府県協会のすべてに於いてセーフティアドバイザーが任命された。

2. 研修会の開催

第1回研修会の未受講者を対象として、第2回研修会を下表のとおり開催した。

[表 4-5]

事業名	開催日程	開催場所	受講数
第2回研修会	11/24(土)	戸田ボートコース(埼玉県)	15名

(4) コーチセミナー開催事業

競技団体監督、コーチ、学校関係者を対象に、協会ヘッドコーチ、外国招聘コーチを講師とするコーチセミナーを下表のとおり開催した。

[表 4-6]

事業名	講師	開催日程・場所	受講者
第2回セミナー	G. Postiglione, J. Faulkner	1/26(金) 戸田	110名

(5) 選手強化事業

1) 2007年世界選手権大会・ワールドカップ・U23世界選手権代表選手強化事業

[表 5-1]

合宿種別	合宿日程・場所	参加人数
国内強化合宿	4/9(月)～15(日) 埼玉県・戸田ボートコース	男子18名、女子6名 スタッフ5名
	5/7(月)～13(日) 埼玉県・戸田ボートコース	男子18名、女子8名 スタッフ5名
	6/10(日)～21(木) 埼玉県・戸田ボートコース	男子22名、女子8名 スタッフ7名
	7/1(日)～8(日) 埼玉県・戸田ボートコース	男子6名、女子2名 スタッフ3名
	7/15(日)～22(日) 埼玉県・戸田ボートコース	男子7名、女子3名 スタッフ3名
海外強化合宿	4/9(月)～5/29(火) ギリシャ・アテネ	男子3名 スタッフ4名
	6/17(日)～7/10(火) ギリシャ・イオアニナ	男子3名 スタッフ2名
	7/16(月)～8/19(日) ギリシャ・イオアニナ	男子6名、女子2名 スタッフ8名

2) 北京オリンピック代表候補選手強化事業

[表 5-2]

合宿種別	合宿日程・場所	参加人数
国内強化合宿	10/11 (木) ~11/26 (月) 埼玉県・戸田ボートコース	男子 30 名、女子 15 名 スタッフ 8 名
	平成 20 年 1/6 (日) ~20 (日) 埼玉県・戸田ボートコース	男子 3 名、女子 2 名 スタッフ 2 名
	平成 20 年 1/27 (日) ~2/24 (日) 埼玉県・戸田ボートコース	男子 3 名、女子 3 名 スタッフ 2 名
	平成 20 年 3/3 (月) ~20 (木) 埼玉県・戸田ボートコース	男子 3 名、女子 3 名 スタッフ 2 名

3) 平成 20 年度強化指定候補選手強化事業

[表 5-3]

合宿種別	合宿日程・場所	参加人数
国内強化合宿	11/26 (月) ~12/2 (日) 埼玉県・戸田ボートコース	男子 43 名、女子 13 名 スタッフ 9 名
	平成 20 年 1/20 (日) ~1/27 (日) 埼玉県・戸田ボートコース	男子 25 名、女子 11 名 スタッフ 9 名
	平成 20 年 2/11 (月) ~2/17 (日) 埼玉県・戸田ボートコース	男子 20 名、女子 11 名 スタッフ 8 名
	平成 20 年 3/20 (木) ~3/27 (木) 埼玉県・戸田ボートコース	男子 17 名、女子 3 名 スタッフ 5 名

4) 2007 年世界ジュニア選手権大会・アジアジュニア選手権大会代表選手強化事業

[表 5-4]

合宿種別	合宿日程・場所	参加人数
代表選手国内強化合宿	6/19 (火) ~22 (金) 埼玉県・戸田ボートコース	男子 7 名、女子 3 名 スタッフ 3 名
	7/10 (火) ~19 (木) 福井県・久々子湖ボートコース	男子 7 名、女子 3 名 スタッフ 3 名
	7/24 (火) ~8/3 (金) 富山県・富山県漕艇場	男子 7 名、女子 3 名 スタッフ 3 名

5) 全国高等学校選抜強化事業

[表 5-5]

合宿名称	実施時期・場所	参加人員
第1次強化合宿	12/17(月)～21(金) 静岡県・浜松市天竜ボート場	男子20名、女子20名 スタッフ20名
第2次強化合宿	平成20年1/20(日)～26(土) 埼玉県・戸田ボートコース	男子7名、女子4名 スタッフ5名
第3次強化合宿	平成20年2/11(月)～15(金) 埼玉県・戸田ボートコース	男子6名、女子4名 スタッフ3名

(6) 競技者育成事業

一貫指導システムに基づく「競技者育成プログラム」を作成した。本プログラムの早期導入を図るため、実施計画の策定に着手した。

(7) 普及啓発事業

1) 第20回全国マシンローイング大会の開催

平成19年10月から同20年2月までの間、全国20会場で開催し、昨年度比6%増の3,175名が参加した。

各カテゴリー成績優秀者から8名選抜し、韓国で開催された第8回アジアマシンローイング選手権大会(平成20年2/24、25)へ日本代表として派遣した。

2) 第2回外濠レガッタの開催

ボート人口増大活動の一環として、第2回外濠レガッタを11/11(日)、都内の外濠で開催した。日本代表選手が参加したスプリントレース、一般参加者のレースを催し、ボート競技の魅力を広くアピールすることに努めた。

3) 関連団体の活動支援

高校生、中学生のボート競技振興及び障害者ボート競技の振興を図るため、それぞれの関連団体である全国高体連ボート専門部、全国中学校ボート連盟、NPO法人日本アダプティブローイング協会の競漕大会と普及活動に対して助成金交付と業務支援を行った。

(8) メディカルサポート・ドーピング検査

1) 主催大会の会期中、救急事態に対応のため医師を会場に常駐させて対応を図った。

2) 海外遠征に医師を同行させ、選手へのメディカルサポート、コンディショニングの調整、助言などの業務に当たらせた。

- 3) 主催4大会に於いて、大会内ドーピング検査を選手合計23名に実施した。
- 4) 日本アンチドーピング機構のドーピングオフィサー養成事業に協力し、ドーピングオフィサー1名を養成した。
- 5) アンチドーピングについて普及、啓発活動を行った。

5. 競漕艇及び附属品の規格の決定と審査に関する事業

(1) 新規申請業者の認定

日本ボート協会規格艇登録規定細則の附則1を平成19年12月31日で解除することに伴い、規格艇登録規定細則第2条による新規艇製造・販売業者の認定を平成19年10月1日から実施する旨の公告を同年7月1日付で発行した。

(2) 規格艇の検査

第62回国民体育大会、第55回全国高等学校選手権及び第18回全国高等学校選抜大会に於いて、使用競漕艇の検査業務に携わった。

6. 各種ボート競技に関する図書の刊行に関する事業

(1) 広報誌の刊行

協会広報誌「月刊ローイング」を10巻、発行した。

(2) テキストの刊行

ボートインストラクター養成用テキスト「さあ漕ぎだそう」を刊行し、インストラクター養成講習会の教材として受講者に配布した。

(3) 購読者管理システム

購読者管理システムの活用と改良により、新規読者の獲得と購読料徴収率の向上を図った。

(4) 都道府県協会ホームページの開設支援

都道府県協会の要請に応じて、ホームページ開設に必要な支援を行った。当年度末の開設数は47都道府県のうち25となった。

7. その他の目的を達成するため必要な事業

(1) 安全・環境委員会の設立

地球環境の保護は、現代に生きるすべての人間、すべての競技団体にとって重要な責務であるのと認識に立ち、当協会のあらゆる活動分野で、地球温暖化防止を始めとする「地球環境との調和、環境保護と改善」に配慮して行動し、日本ボート界の環境意識向上のため、安全・環境委員会を6月1日付で設立した。

(2) 大会協賛事業の実施

第85回全日本選手権大会の開催に当たり、1社より特別協賛、12社より一般協賛の協力を得た。

(3) ボート人口増大プロジェクトの促進

全国ボート場所在市町村協議会の会議、ボート大会へ役員を派遣するなど、各地の関連団体との関係構築に努めた。

以上